

# 第 53 回

## 令和 6 年度全国豆类経営改善共励会

### 成 績 概 要

2025. 6. 27



主催 全国農業協同組合中央会  
株式会社日本農業新聞

後援 農 林 水 産 省  
全国農業協同組合連合会  
(公助) 日本豆类協会

## はじめに

全国豆類経営改善共励会は、国産大豆、小豆・いんげん・落花生などの生産振興を図るため、昭和47年以来実施しているもので、今回で53回を迎えました。その狙いとするところは、豆類生産における①実需に見合った生産・加工による高付加価値化②栽培技術の向上③土地利用の高度化④輪作体系の定着化——などにあります。

今回は全国から大豆 家族経営の部、大豆 集団の部、小豆・いんげん・落花生等の部に合わせて178点の応募がありました。この中から今回も都道府県、ブロック、中央の各段階での審査を経て、農林水産大臣賞、農産局長賞など計5点の受賞が決定しました。入賞した出品財はいずれも優秀で、関係者の方々の日頃の努力が見事に実を結んだものと深く敬意を表するものです。併せて今回受賞の榮譽に輝いたみなさんの技術が、これからの豆類生産農家・集団の指標として十分に活用されることを期待します。

なお、本共励会には、農林水産省、各地方農政局、道府県、JA、JA中央会・全農府県本部、JA経済連をはじめ関係諸団体に多大なご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに、審査、現地調査などにご協力をいただきました審査委員各位にも衷心よりお礼を申し上げます。

令和7年6月27日

全国農業協同組合中央会  
株式会社 日本農業新聞

## 目 次

### はじめに

1. 全国審査委員	2
2. 共励会受賞の選評	3
3. 参加点数	5
4. 第53回（令和6年度）全国豆類経営改善共励会 受賞者	6
5. 各賞受賞者の経営内容	7
I. 農林水産大臣賞	8
II. 農林水産省農産局長賞	16
III. 全国農業協同組合中央会会長賞	32
IV. 全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞	40

# 1. 全国審査委員

(敬称略・順不同)

東	北	大	学	名 誉 教 授	國 分 牧 衛
(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター 事業推進部イノベーション創出課				研究リーダー	持 田 秀 之
(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 農業機械研究部門 研究推進部				部 長	梅 田 直 円
(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 本部 企画戦略本部 農業経営戦略部					迫 田 登 稔
東京農業大学 農学部 農学科 作物学研究室				教 授	吉 永 悟 志
全国農業協同組合連合会 麦類農産部				部 長	石 澤 孝 和
(公財)日本豆類協会				事務局長	高 野 浩 文
(一社)全国農業協同組合中央会 農政部				部 長	杉 山 隆 之
(株)日本農業新聞 協同事業局 パートナー支援部				部 長	伊 藤 洋 次

## 2. 共励会受賞の選評



審査委員長  
東北大学名誉教授  
國分牧衛

本年度は「大豆家族経営の部」に77点、「大豆集団の部」に31点、「小豆・いんげん・落花生等の部」に70点、計178点の参加があった。その中から「大豆家族経営の部」には3点、「大豆集団の部」には2点、計5点が各ブロックから推薦があり全国審査の対象とされた。「小豆・いんげん・落花生等の部」には全国審査に推薦された出品者はなかった。全国審査会は昨年同様に対面方式によって行った。審査の結果、大豆家族経営の部から1点の農林水産大臣賞（以下大臣賞と略記）を選出した。また、大豆家族経営の部と集団の部から農林水産省農産局長賞（以下局長賞と略記）をそれぞれ1点ずつ選定した。さらに、主催・後援団体賞を計2点選定した。受賞者・団体はいずれも高収量・品質を得ながらコスト抑制を達成しており、その技術・経営内容は他の模範となりうるものと高く評価した。以下に大臣賞および局長賞の受賞者の技術・経営の特徴を述べる。

### 大豆家族経営の部

この部門では山形県天童市の「株式会社 おしの農場（代表 押野和幸氏）」を大臣賞に選定した。おしの農場は耕作面積120haのうち大豆作付面積は21haで、経営面積を年々拡大する中で、大豆の耕作面積の割合も増やしている。品種は実需者からの要望に応え「里のほほえみ」を採用している。単収は279kg/10aと高く、過去3年間平均では313kg/10aと多収を得ている。また、大部分が上位等級（1等99.5%）と品質面でも優れている。同農場は、額縁明渠やサブソイラによる排水を徹底しており、それが高い出芽率と健全な初期生育に結びついているものと推察される。地力維持対策としては、鶏糞（100kg/10a）を施用している。開花前にはドローンを活用して追肥を行っている。経営全体としては農地120haの営農の効率化のため、自動操舵トラクターを活用し、スマート農業技術の導入を図っているのが特徴である。特に営農支援システム（KSAS）を活用した肥培管理や作業の合理化を図っていることは特筆すべきであろう。因みに同農場は「スマート農業技術活用促進法（2024年施行）」に基づく「生産方式革新実施計画」の全国初の認定を受けた。代表者は県

の農業士会会長に任命されるなど、地域農業を牽引する役割を果たしている。

局長賞に選定した佐賀県佐賀市の「株式会社 徳永ファーム（代表 徳永英憲氏）」の実績も高く評価された。同ファームは水稲と大豆を表作、大麦・小麦を裏作として二毛作の水田経営を行っている。大豆は4.6 ha（品種フクユタカ）の作付けで、単収305kg/10aを得ている。選定された地区単位で種子用として栽培している。麦収穫後には麦稈を粉碎して耕起を行い、有機物の供給による地力維持を図っている。また、額縁明渠と暗渠により、排水対策を確実にしている。高温化で懸念される小粒化対策として、開花期には亜リン酸加里や尿素の葉面散布を行い、粒肥大の促進を図っている点が注目される。

### 大豆集団の部

この部門では、福岡県筑後市に所在する「農事組合法人いまでら（代表理事 中村浩章氏）」を局長賞に選定した。この組合法人は17戸の農家を構成員とし、24.8haの水田を耕作している。水稲および麦類を組み合わせたブロックローテーションを実施しており、令和6年度は大豆17ha、麦類24ha、水稲5haの作付けであった。大豆作は県の大豆振興策に応じた種子生産を中心としており、従来からの「フクユタカ」から「ちくしB5号」に転換している。単収は183kg/10aであり、過去3年平均でも181kg/10aと安定した収量を得ている。地域の転作圃場の団地化を進め、排水対策を重視している点、適期に一斉播種を行い、出芽の確保と初期生育の均一化を図っている点が安定多収の最大の要因であろう。

### 審査を振り返って

本年の受賞者の収量・品質はそれぞれの地域平均を大きく上回っている。なかでも、個別経営の部で大臣賞を受賞したおしの農場および局長賞を受賞した徳永ファームは単収300kg/10a前後、大部分が上位等級を達成している。今後、見習うべき優れたモデルとして、技術・経営内容の周辺への拡大が期待される。

本年度の受賞者のうち2件は種子生産を主体としていた。種子生産では、粒の純度・充実度および健全性などの要件に適合することが求められる。受賞者は、病害虫の適切な防除、良好な子実肥大を促す肥培管理、そして適切な種子の選別作業などを通じて種子の規格に適合するための種子生産を行っていることがうかがえた。

なお、「小豆・いんげん・落花生等の部」では、ブロック段階では70件の申請があったものの、全国審査に推薦された出品者がなかったことは残念である。次年度の積極的な出品・推薦に期待したい。

### 3. 参加点数

#### 1. 参加点数

##### (1) 総出品点数

		第 53 回 (令和 6 年度)	第 52 回 (令和 5 年度)
大豆 家族経営の部		77	80
大豆 集団の部		31	36
小豆・いんげん ・落花生等の部	小 豆	70	70
	いんげん	0	0
	落花生等	0	0
	計	70	70
計		178	186

##### (2) 地区別参加点数

ブロック \ 項目	大豆		小豆・いんげん・ 落花生等の部	合計
	家族経営の部	集団の部		
北海道	50	5	70	125
東北	9	10	0	19
関東	0	0	0	0
北陸	0	2	0	2
東海	2	2	0	4
近畿	0	0	0	0
中国四国	0	0	0	0
九州	16	12	0	28
合計	77	31	70	178

#### 4. 第53回（令和6年度）全国豆類経営改善共励会 受賞者

賞名	地区	氏名	年齢	住所	品種名	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	労働時間 (hr/10a)	費用合計 (円/60kg)	品質 (2等級以上) (%)
農林水産大臣賞	東北	大豆家族経営の部 かぶしきがいしゃ 株式会社 おしの農場 だいひょう おしのかずゆき 代表 押野和幸	61歳	山形県 天童市	里のほほえみ	21.0	279	8.7	40,639	100.0%
農林水産省農産局長賞	九州	大豆家族経営の部 かぶしきがいしゃ 株式会社 とくなが 徳永ファーム だいひょう とくなが ひでのり 代表 徳永英憲	34歳	佐賀県 佐賀市	フクユタカ	4.6	305	5.0	44,605	88.7%
	九州	大豆集団の部 のうじくみあいほうじん 農事組合法人いまでら だいひょう りじ なかむらひろあき (代表理事 中村浩章)		福岡県 筑後市	ちくしB5号	17.0	183	5.8	44,866	82.6%
全国農業協同組合中央会長賞	九州	大豆家族経営の部 しみず ようすけ 清水 陽介	45歳	福岡県 宗像市	ちくしB5号	3.3	164	6.9	50,477	77.0%
全国農業協同組合連合会 経営管理委員会会長賞	九州	大豆集団の部 とがりせいさんくみあい 戸ヶ里生産組合 だいひょう さだまつゆうき (代表 定松右樹)		佐賀県 杵島郡 白石町	フクユタカ	21.3	156	6.2	40,962	81.7%

## 5. 各賞受賞者の経営内容

# I . 農林水産大臣賞

## 株式会社おしの農場 代表 押野 和幸

(大豆 家族経営の部)

### I 総括表

氏名 (年齢)	かぶしきがいしゃおしののうじょう 株式会社おしの農場 代表 押野和幸 ( 61 歳)			住所	〒994-0068 山形県天童市高揃北	
所属農協 電話	天童市農業協同組合 023-653-5114			農協所在地	〒994-0013 山形県天童市老野森2-1-1	
出品品種	品種名	作付面積	10a当たり収量	労働時間	8.7 hr/10a	
	◎里のほほえみ	21.0 ha	279 kg	費用合計	40,639 円/10a	
				上位等級比率	100%	

※品種名の◎は奨励品種

経営タイプ	家族人数	うち農業従事者	雇用日数 (延べ人日)
法人	4人	4人	880人

### II . 経営の状況

#### 1. 経営農地面積の状況

(単位: ha)

	田	普通畑	樹園地	牧草地	その他 ( )	合計
農地面積	120.0	0.0	0.0	0.0	0.0	120.0
うち自作地	8.0					8.0
うち借地	112.0					112.0
全作業受託地	0.0					0.0
部分作業受託地	0.0					0.0

#### 2. 農作物の作付けおよび規模拡大の状況

##### (1) 大豆・水稲・麦類

(単位: ha)

区 分	大豆			水稲			麦類			
	4年	5年	6年	4年	5年	6年	4年	5年	6年	
自作地										
借地	13.0	13.0	21.0							
合計	13.0	13.0	21.0	87.0	107.0	99.0	0.0	0.0	0.0	
	水田	13.0	13.0	21.0						
	転作カウント	13.0	13.0	21.0						
全作業受託										
部分作業受託										
耕起・整地										
施肥・播種										
中耕・培土										
防除										
収穫										
その他										

3. 農業収入の状況

(1) 農業経営の概要

(単位：円)

	大豆	水稻	麦類	その他作物	作業委託料金	加工品販売	合計
農業粗収益①	19,930,480	219,034,720					238,965,200
うち補助金							
畑作物の直接支払交付金	4,174,000						4,174,000
水田活用の直接支払交付金	7,394,500						7,394,500
その他( )	0						0
その他( )	0						0
農業経営費②	8,534,779	28,220,490					36,755,269
農業所得(①-②)	11,395,701	190,814,230	0	0	0	0	202,209,931

(2) 大豆経営の概要

(単位：円)

		大豆		
			10アール当たり	10アール当たり県平均
農業粗収益①		19,930,480	94,907	77,479
うち補助金				
畑作物の直接支払交付金		4,174,000	20,000	24,261
水田活用の直接支払交付金		7,394,500	35,000	35,000
その他( )				
その他( )				
農業経営費	種苗費	708,750	3,375	3,236
	肥料費	541,380	2,578	5,185
	農業薬剤費	927,780	4,418	5,890
	光熱動力費	312,451	1,487	2,288
	諸材料費	12,000	57	5
	土地改良・水利費	0	0	1,209
	賃借料・料金	0	0	8,334
	租税公課	18,184	86	625
	建物費	0	0	1,078
	自動車費	5,655	26	1,162
	農機具費	97,247	463	8,085
	生産管理費	0	0	270
	労働費	3,391,332	16,149	10,508
	うち家族③	650,832	3,099	8,672
	うち雇用	2,740,500	13,050	
支払利子	0	0	64	
支払地代	2,520,000	12,000	6,014	
小計②	8,534,779	40,639	62,625	
農業所得(①-②)	11,395,701	54,268	14,854	
〃(家族労賃除く①-②+③)	12,046,533	57,367	23,526	

(3) その他の参考情報

ア 60kg当たり

(単位：円)

農業粗収益	20,420	円
農業経営費	8,744	円
費用合計	8,744	円
農業所得	11,675	円

イ 大豆共済への加入状況

(令和6年産)

加入面積	0 ha
平均基準10a収量	0 kg

ウ 収入保険への加入状況

(令和6年産)

基準収入	19,963,999円
------	-------------

### Ⅲ 大豆生産技術などの概要

#### 1. 大豆収穫量

区 分	4年産		5年産		6年産	
	1 等	45,210 kg	99.2%	kg	-	58,290 kg
2 等	360 kg	0.8%	33,120 kg	81.8%	270 kg	0.5%
3 等	kg	-	7,380 kg	18.2%	kg	-
特定加工用	kg	-	kg	-	kg	-
種子合格	kg	-	kg	-	kg	-
その他	kg	-	kg	-	kg	-
計	45,570 kg		40,500 kg		58,560 kg	
単収(kg/10a) (県平均単収比%)	350 kg (250%)		311 kg (232%)		279 kg (215%)	
県平均単収(kg/10a)	140 kg		134 kg		130 kg	

3年平均  
313kg

#### 2. 堆きゅう肥などの施用状況

(単位：t/10a)

種 類	堆きゅう肥	緑肥すき込み	稲わら・麦かんすき込み
年間施用量	鶏ふん 0.1		
入手方法	販売店から購入		

#### 3. 排水対策実施状況

(単位：ha)

実施方法	本暗渠	排水溝	圃場内明渠	弾丸暗渠	心土破碎	高畝
実施面積	21.0	21.0	21.0		21.0	

#### 4. 大豆の耕種概要（10a当たり）

項目 作業項目	所用労働時間		うち機械利用時間		作業実施 体制	備考 (使用薬剤 ・使用量など)	
	人数×時間	作業機名		時間			
堆肥運搬							
堆肥/基肥散布	2.0人×0.2	トラクター+ブロードキャスター(MP805)		0.2	個人:オペレーター1人、補助1人		
酸度矯正	2.0人×0.2	トラクター+ブロードキャスター(MP805)		0.2	個人:オペレーター1人、補助1人	苦土石灰 60kg/10a	
排水対策	1.0人×0.2	トラクター+サブソイラ(S452EG1)		0.2	個人:オペレーター1人		
種子予措	2.0人×0.2	ミキサー		0.1	個人:作業員2人	クルーザーMAX 40ml/10a	
耕起	1.0人×0.5	トラクター+ロータリー(RM22S)		0.5	個人:オペレーター1人		
整地							
側条施肥							
播種	2.0人×0.3	トラクター+大豆播種機(アグリテック/矢崎AFRG)		0.3	個人:オペレーター1人、補助1人		
除草剤散布	2.0人×0.1	ハイクリブーム		0.1	個人:オペレーター1人、補助1人	ブローラプラス500ml/10a,ポルトフロアブル250ml/10a	
中耕	1.0人×0.2	トラクター+中耕ディスク(コバシDC301)		0.2	個人:オペレーター1人		
中耕							
培土	1.0人×0.2	トラクター+中耕ディスク(コバシDC301)		0.2	個人:オペレーター1人		
培土							
病虫害 防除	殺虫剤散布	3.0人×0.1	DJI AGRAS20		0.1	個人:オペレーター1人、補助2人	プレバゾンフロアブル 25ml/10a
	殺虫・殺菌剤散布	3.0人×0.1	DJI AGRAS20		0.1	個人:オペレーター1人、補助2人	トレボンエアー 100ml/10a
	殺虫剤散布	3.0人×0.1	DJI AGRAS20		0.1	個人:オペレーター1人、補助2人	プレバゾンフロアブル 25ml/10a
追肥	3.0人×0.1	DJI AGRAS20		0.1	個人:オペレーター1人、補助2人	尿素 3kg/10a	
畝間かん水							
その他( )							
収穫	2.0人×0.3			0.2	個人:オペレーター1人、補助1人		
島立て・にお積み							
脱穀							
乾燥	2.0人×1.2	汎用乾燥機80石(山本製作所) 汎用乾燥機70石(山本製作所)		1.2	個人:作業員2人		
調製	2.0人×1.0	大豆選別機(山本製作所)		1.0	個人:作業員2人		
出荷							
計	8.7			4.3			

## 5. 作付体系

### (1) ブロックローテーションまたは畑輪作の有無

ブロックローテーション	無
畑輪作	無

### (2) 大豆圃場における代表的な作付け体系

	面積体系別 (ha)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和3年	大豆 (11ha)						○ 大豆					×	
令和4年	大豆 (13ha)						○ 大豆					×	
令和5年	大豆 (13ha)						○ 大豆					×	
令和6年	大豆 (21ha)						○ 大豆					×	

## IV 販売などの概要

### 1. 販売実績

(単位：kg)

		4年産	5年産	6年産
生産量		45,570	42,600	58,560
自家消費				
交付金対象出荷量		45,570	40,500	58,560
契約栽培		45,570	40,500	58,560
相対取引				
入札販売				
交付金対象外出荷量		0	0	0
内訳	自家消費			
	自家加工			
	地場加工業者			
	生活改善グループ			
	その他加工メーカー			
	流通業者			
その他( )				

### 2. 自家加工実績（令和6年1月～12月）

加工品名	製品別製造・販売量		
		販売量計 (内訳)	計

## V 経営・技術上の取り組み

### 1. 大豆作の取り組みや規模拡大の経緯、農業経営における大豆作の定着度など

地力低下による収量及び品質の低下、連作障害等を回避するため、鶏ふん等の有機物を投入している。また、苦土石灰投入により土壌の酸度矯正を行い、生育確保に努めている。

規模拡大については、年々離農者からの農地引受け等で水田経営面積が拡大している状況であり、労力分散を図るために畑作物である大豆の栽培面積に取り組んでおり、今後も大豆栽培面積の拡大を見込んでいる。株式会社おしの農場では、5年前から大豆の作付けを開始し、現在では稲作に次ぐ基幹作物となっている。

先駆的にスマート農業技術導入を図っており、KSASによる営農支援システム（KSAS）と栽培データ管理システム（ザルビオフィールドマネージャー）で得られた地力や栽培データの活用を行っている。その取組が、農業の生産性の向上のためのスマート農業技術の活用促進に関する法律に基づく、生産方式革新実施計画認定を受け、全国初、第1号の認定となった。掲載 URL → [https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/houritsu/seisan\\_ninntei\\_jyoukyou.html](https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/houritsu/seisan_ninntei_jyoukyou.html)

### 2. 技術改善の取り組み

#### (1) 多収化と高品質生産の取り組み

借地での栽培が大半を占め、その多くが水田であることから、圃場条件を均一にするために透・排水性向上に徹底して取り組んでいる。額縁明渠施工やサブソイラ施工による排水対策を徹底し、出芽率向上や初期生育確保に努めている。また、スタブル

カルチの実施により、土壌の物理性改善や透水性向上を図っている。

県産「里のほほえみ」は実需者からの固定需要があることから、出荷先から「里のほほえみ」の作付けを求められており、要望に応えるために多収で高品質の大豆品種である「里のほほえみ」を選択している。

播種作業は、自動操舵システムを導入したトラクタを使用することで精度が高いものとなり、その後の中耕培土作業が大豆の生育に合わせて適期に実施できるようにしている。また、生育状況に合わせて中耕・培土を2回実施し、根粒活性化を図るとともに、雑草の発生を抑制している。

開花前にドローンを使用し適期に追肥を行うことで、莢数、一莢内粒数、百粒重を高めるように管理している。

収穫時は、青立ちの発生状況を圃場毎に確認しながら除去し、汚損粒の混入を防止している。

## (2) 省力化と生産コスト減、新技術

営農支援システム（KSAS）を活用しており、水稻及び大豆の圃場ごとの作業記録・進捗状況を「見える化」し、従業員間でデータを共有している。また、収量や栽培履歴等もKSASにより管理しているため、過去データを遡り、次年度の生産計画作成にも役立てている。また、栽培データ管理システム（ザルビオフィールドマネージャー）で得られた地力や栽培データを活用し、可変施肥や圃場ごとの施肥設計で収量の高位平準化を図っている。

栽培面においては、自動操舵システムを使用したトラクタを用いて、精度の高い播種作業を実施している。おしの農場には就農3年未満の経験の浅いオペレーターが在籍するが、自動操舵システムを活用することで、熟練オペレーター並みの播種精度を確保できるとともに、その後の中耕・培土作業の作業効率を向上させている。

さらに、農薬散布及び追肥作業にドローンを導入して作業時間の短縮に伴う省力化を図ることで大豆の生育状況に合わせた管理作業の実現を可能としている。

## (3) みどりの食料システム戦略に対応した取り組み

ドローンを用いた農薬散布及び追肥作業によって生育状況に合わせた管理作業を実現し、過剰な資材・農薬の散布とならないように取り組んでいる。

基肥に鶏ふんを使用して地力の維持向上に努め、化学肥料の使用量削減に繋げている。

## 3. 販売・消費拡大の取り組み

J Aと契約栽培しているが、地元の味噌加工業者から原料の提供を求められており、2年前からJ A出荷の生産物の一部を地場加工業者に供給している。令和6年産大豆は大部分が1等格付けとなり、実需者に高品質の原料を供給することが出来た。今後も加工業者の要望に沿った高品質な大豆生産を実現するため、適期・適作業に取り組む。栽培面積の大半が借地で圃場により排水性が異なるため、排水対策に徹底して取り組み、初期生育確保することで適期・適作業ができるようにしていく。

今後も加工業者との情報共有を行い、要望に応える大豆生産に取り組む。将来的には自社ブランドとして大豆販売を目指している。

#### 4. 地域農業への貢献、その他の特徴的な取り組み

押野和幸氏は地域農業において指導的な活動をしていく中で、地元小学生を対象とした親子でのりんご狩り体験や、芋煮会開催など地域の食農教育に携わってきた。集落の中心的な農業リーダーであり、大豆・水稻栽培の高い技術力への信頼が厚く、農地の委託要望も多い。「地元農家の意向に沿うことが私の経営理念」として、高掬地区の農地に特化して利用集積を図っており、地域の農家から農地を借用することで耕作放棄地をなくせるように心がけるなど、地域農業に貢献している。

#### 5. 今後の作付計画、経営・栽培技術上の方向性

今後も離農者からの農地引受け等で、水田経営面積の拡大が見込まれるため、その場合に対応出来るよう、更なる大豆栽培面積の拡大に向けて取り組んでいきたい。経営や栽培管理については、次世代への事業承継を進めるとともに、コスト削減や収量の安定化、作業者の技術の平準化、人材育成に力を入れていきたいと考えている。

## VI その他の特記事項

### 1. 出品者の地域農業における活動状況、経歴、表彰歴

#### (1) 活動状況および経歴

- ・天童市農業青年クラブ会長（平成13年）
- ・山形県青年農業士（平成3年～平成16年）
- ・山形県指導農業士（平成27年）
- ・山形県農業士会長（令和7年～）

#### (2) 表彰歴

- ・山形県ベストアグリ賞（令和3年）
- ・山形県グットハーベストコンクール 大豆の部（団体）県知事賞（令和5年）



## Ⅱ． 農林水産省 農産局長賞

### 1. 株式会社徳永ファーム 代表 徳永英憲

(大豆 家族経営の部)

#### I 総括表

氏名 (年齢)	かぶしきがいしやとくながふあーむ 株式会社徳永ファーム 代表 徳永英憲 (34歳)			住所	〒840-2104 佐賀県佐賀市諸富町	
所属農協 電話	佐賀県農業協同組合中部地区営農経済センター 佐賀市南部事業所(諸富駐在) 0952-37-0300			農協所在地	〒840-2102 佐賀県佐賀市諸富町大字為重561-3	
出品品種	品種名	作付面積	10a当たり収量	労働時間	5.0 hr/10a	
	◎フクユタカ	4.6 ha	305 kg	費用合計	44,605円/10a	
				上位等級比率	88.7%	

※品種名の◎は奨励品種

経営タイプ	家族人数	うち農業従事者	雇用日数 (延べ人日)
法人	7人	4人	248人

#### Ⅱ. 経営の状況

##### 1. 経営農地面積の状況

(単位: ha)

	田	普通畑	樹園地	牧草地	その他(果樹)	合計
農地面積	7.9	0.0	0.0	0.0	0.3	8.2
うち自作地	7.9				0.3	8.2
うち借地	0.0					0.0
全作業受託地	8.3					8.3
部分作業受託地						0.0

##### 2. 農作物の作付けおよび規模拡大の状況

###### (1) 大豆・水稻・麦類

(単位: ha)

区 分	大豆			水稻			麦類			
	4年	5年	6年	4年	5年	6年	4年	5年	6年	
自作地			4.6							
借地	6.2	7.2								
合計	6.2	7.2	4.6	10.2	9.2	3.2	16.4	16.4	16.2	
	水田	6.2	7.2	4.6						
	転作カウント	6.2	7.2	4.6						
全作業受託			1.3	※大豆は6年の自作地のみが徳永ファーム ※水稻/4~5年は経営移譲前の父の作付 ※作業受託1.3haは父の作付						
部分作業受託										
耕起・整地										
施肥・播種										
中耕・培土										
防除										
収穫										
その他										

3. 農業収入の状況

(1) 農業経営の概要

(単位：円)

	大豆	水稲	麦類	その他作物	作業受託料金	加工品販売	合計
農業粗収益①	6,642,928	4,075,791		12,915,944			23,634,663
うち補助金							
畑作物の直接支払交付金	254,585						254,585
水田活用の直接支払交付金	1,634,500						1,634,500
その他( )							0
その他( )							0
農業経営費②	2,051,963	1,006,950		6,462,329			9,521,242
農業所得(①-②)	4,590,965	3,068,841	0	6,453,615	0	0	14,113,421

(2) 大豆経営の概要

(単位：円)

		大豆		
			10アール当たり	10アール当たり県平均
農業粗収益①		6,642,928	144,411	95,500
うち補助金				
畑作物の直接支払交付金		254,585	5,534	38,500
水田活用の直接支払交付金		1,634,500	35,533	35,000
その他( )				
その他( )				
農業経営費	種苗費	240,900	5,236	2,841
	肥料費	333,170	7,242	2,553
	農業薬剤費	486,699	10,580	3,778
	光熱動力費	83,812	1,822	1,543
	諸材料費	16,500	358	—
	土地改良・水利費	10,258	223	1,149
	賃借料・料金	383,318	8,333	8,712
	租税公課	29,118	633	646
	建物費	44,942	977	1,149
	自動車費	35,972	782	7,949
	農機具費	379,638	8,253	
	生産管理費	6,532	142	136
	労働費	0	0	10,113
	うち家族③	0	0	9,074
	うち雇用	0	0	—
支払利子	1,104	24	1,678	
支払地代	0	0	6,986	
小計②	2,051,963	44,605	58,307	
農業所得(①-②)	4,590,965	99,806	37,193	
〃(家族労賃除く①-②+③)	4,590,965	99,806	46,267	

(3) その他の参考情報

ア 60kg当たり

(単位：円)

農業粗収益	28,021	円
農業経営費	10,388	円
費用合計	10,388	円
農業所得	17,633	円

イ 大豆共済への加入状況

(令和6年産)

加入面積	ha
平均基準10a収量	kg

ウ 収入保険への加入状況

(令和6年産)

基準収入	7年産麦より加入
------	----------

### Ⅲ 大豆生産技術などの概要

#### 1. 大豆収穫量

区 分	4年産		5年産		6年産	
1 等	kg	-	3,925 kg	18.3%	kg	-
2 等	2,971 kg	37.8%	1,362 kg	6.3%	kg	-
3 等	kg	-	103 kg	0.5%	1,442 kg	10.1%
特定加工用	136 kg	1.7%	37 kg	0.2%	159 kg	1.1%
種子合格	4,748 kg	60.4%	16,063 kg	74.7%	12,623 kg	88.7%
その他	kg	-	kg	-	kg	-
計	7,855 kg		21,490 kg		14,224 kg	
単収(kg/10a) (県平均単収比%)	125 kg (105%)		297 kg (138%)		305 kg (238%)	
県平均単収(kg/10a)	119 kg		216 kg		128 kg	

3年平均  
242 kg

#### 2. 堆きゅう肥などの施用状況

(単位：t/10a)

種 類	堆きゅう肥	緑肥すき込み	稲わら・麦かんすき込み 麦わら全量鋤き込み
年間施用量			
入手方法			

#### 3. 排水対策実施状況

(単位：ha)

実施方法	本暗渠	排水溝	圃場内明渠	弾丸暗渠	心土破碎	高畝
実施面積	4.6		4.6	4.6		



#### 4. 大豆の耕種概要 (10a当たり)

作業項目	項目 所用労働時間 人数×時間	うち機械利用時間		作業実施 体制	備考 (使用薬剤 ・使用量など)	
		作業機名				
		時間				
堆肥運搬 堆肥/基肥散布						
酸度矯正	1.0人 × 0.3	マニュアルスプレッダー	0.2	個人	ミネラルG (粉) 100kg	
排水対策	1.0人 × 0.6	リターンデッチャ/サブソイラ	0.6	個人	額縁明渠および暗渠	
種子予措	1.0人 × 0.1	種子消毒ミキサー	0.1	個人	クキヒゲンR 2フロアブル	
耕起 整地	1.0人 × 0.4	トラクター	0.4	個人		
側条施肥						
播種	1.0人 × 0.6	大豆3条播種機	0.5	個人	3粒播種	
除草剤散布	1.0人 × 0.3	乗用管理機	0.2	個人	ラウンドアップ/ラクサー1,000ml/500ml	
中耕 中耕						
培土	1.0人 × 1.0	キューホ除草カルチ(5条)		個人	除草・土入れの同時処理	
培土						
病虫害 防除	殺虫剤散布	1.0人 × 0.3	乗用管理機	0.2	個人	●グレーション/スタークル50ml/100ml ●PKゴー(50g)と尿素(1kg)を混用散布
	殺虫・殺菌剤散布	1.0人 × 0.3	乗用管理機	0.2	個人	●ベネビア/スタークル/トップジン50ml/100ml/100ml ●PKゴー(50g)と尿素(1kg)を混用散布
	殺虫剤散布	1.0人 × 0.3	乗用管理機	0.2	個人	プロフレア 50ml
追肥	1.0人 × 0.3		0.2	個人	PKゴー(50g)と尿素(2kg)を混用散布	
畝間かん水						
その他( )						
収穫 島立て・にお積み	1.0人 × 0.5	普通型コンバイン	0.4			
脱穀						
乾燥				共乾に委託		
調製				共乾に委託		
出荷				JAに委託		
計	5.0		3.2			

## 5. 作付体系

### (1) ブロックローテーションまたは畑輪作の有無

ブロックローテーション	有
畑輪作	無

### (2) 大豆圃場における代表的な作付け体系

	面積体系別 (ha)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和3年	大豆(6.4ha) 移譲前	麦				×		○大豆				○麦	×
令和4年	大豆(6.2ha) 移譲前	麦				×	○水稻					○麦	×
令和5年	大豆(7.2ha) 移譲前	麦				×	○水稻					○麦	×
令和6年	大豆(4.6ha)	麦				×		○大豆				○麦	×

#### IV 販売などの概要

##### 1. 販売実績

(単位：kg)

		4年産	5年産	6年産
生産量		7,855	21,490	14,224
自家消費				
交付金対象出荷量				
契約栽培				
相対取引				
入札販売				
交付金対象外出荷量		7,855	21,490	14,224
内訳	自家消費			
	自家加工			
	地場加工業者			
	生活改善グループ			
	その他加工メーカー			
	流通業者			
その他(種子)		7,855	21,490	14,224

##### 2. 自家加工実績(令和6年1月~12月)

加工品名	製品別製造・販売量		
	販売量計 (内訳)	計	0 kg
			kg
			kg
			kg
			kg

#### V 経営・技術上の取り組み

##### 1. 大豆作の取り組みや規模拡大の経緯、農業経営における大豆作の定着度など

水稻・大豆の表作、大麦・小麦の裏作の二毛作による水田経営をおこなっており、R6年産の表作より父からの一部経営移譲により、7.9ha(水稻3.2ha・大豆4.6ha)を作付している。

R7年産では、残りの9.7haの移譲を予定しており、施設野菜(イチゴ)0.3haを含め経営面積17.9haに規模拡大の予定をしている。

管内は3年間のブロックローテーション(管内の1/3が転作)を行っているためそれに沿った転作をおこなっている。また、転作作物では管内の90%以上は大豆の生産をおこなっており、そのうち35%程度で種子用大豆の生産をおこなっている。

管内で選定された地区単位で種子生産をおこなっており、その栽培地区に所属していることもあり、長年生産組合理一体となり優良種子生産に取り組んでいる。

##### 2. 技術改善の取り組み

###### (1)多収化と高品質生産の取り組み

【多収化】への取り組み

- ①麦収穫後に、フレールモアで麦わらおよび株元を粉砕し耕起をおこなうことで、有機質の向上および耕起・播種がしやすい土壌作りが可能となった。
- ②近年のゲリラ豪雨に対応するため、額縁明渠と暗渠の両立による排水対策を講じ、安定した出芽と大雨時の早期排水に対応できるようになった。
- ③土壌改良材(ミネラルG)を10aあたり100kg施用し酸度矯正を行っているが、

土壌 pH に応じてアルカリ資材の使用数量を調整している。

- ④従来の2粒播きから、目皿を3粒播きに変更することで出芽・苗立ちの安定を図った。  
なお、密植本数の増加となるため、窒素（尿素）および亜リン酸（PKゴー）資材による追肥をおこなうことで生育増進・粒肥大を図った。
- ⑤キューホ除草カルチ（5条）の使用により、トラクターでの往復回数が削減できるため、通常のトラクターカルチと比較し巡回時の踏み付けを減少することができるようになった。

#### 【高品質生産】への取組み

- ①虫害の発生状況にあわせ、防除回数および適用薬剤の選定をおこなっている。ただし、カメムシおよび紫斑病の防除については必ずおこなうことで青立ちや病害発生を抑えている。
- ②青立ちや雑草があれば刈取り前に必ず抜き取り除去し、刈取り製品に混入しないようにしている。
- ③従来、刈取り作業については共同作業にておこなっていたため、収穫遅れによる裂莢による数量減少が課題であったが、普通型コンバインを導入し個人での刈取り作業へ移行することで、裂莢前の収穫が可能となった。また、自倉庫を整備し一時保管をおこなえることができるため、共乾施設の未稼働日でも収穫が可能となり、高品質での収穫作業が実現できた。

### (2)省力化と生産コスト減、新技術

#### 【省力化】への取組み

- ①キューホ除草カルチ（5条）を使用し、除草と土入れを同時にすることで省力化を図った。  
また、除草カルチを使用することで、従来のカルチより少量の土量で土入れが可能であるため生育の早い段階から作業ができ、生育増進および早期除草が可能となった。
- ②半径5km範囲内に圃場を集約することにより生産効率の向上が図れた。また、2トンダンプに大型タンクを設置し使用水の確保をおこなった上で、ダンプによりトレーラーをけん引し乗用管理機を同時に運搬している。また、乗用管理機にはGPSを搭載することで散布の際の合図係も不要となり、1オペでの作業が可能となった。
- ③トラクターにGPS直進アシストを搭載し、播種機についても従来の2条播き（150cm）から3条播き（220cm）に変更することで、播種作業時間の大幅な短縮が実現できた。

#### 【生産コスト減】への取組み

- ①フォークリフトの導入により土壌改良剤（ミネラルG）については200kg規格を使用するなど、農薬・肥料等については安価になる大型規格を利用することでコスト低減を図った。
- ②除草カルチの使用により生育の早い段階から使用することで、生育期の茎葉処理除草剤の使用を削減することができた。

#### 【新技術】への取組み

- ①2粒播きから3粒播きへの変更および液肥による追肥体系
- ②キューホ除草カルチ（5条）
- ③乗用管理機へのGPSおよびトラクターにGPS直進アシストを搭載
- ④従来の暗渠に加え額縁明渠による排水対策を追加

### (3)みどりの食料システム戦略に対応した取り組み

除草カルチの使用により、除草剤の使用回数の削減が可能となった。

CO<sub>2</sub>削減のため麦わら焼却をおこなわず、全量すき込みをおこなっている。

土壌分析を実施し、土壌 pH に応じた石灰資材（ミネラルG）の施用を行い、過剰施用をしないように調整している。

### 3. 販売・消費拡大の取り組み

種子生産という重大な責務のもと、病害虫の発生には充分注意し高品質な種子の供給のため管理作業に励んでいる。

### 4. 地域農業への貢献、その他の特徴的な取り組み

J A や県主催の研修会等に積極的に参加することで、積極的に新技術等の知識習得し栽培に実践している。

また、機械メーカーの展示会や研修会へも率先して参加し、新技術や新製品の知識習得をおこない、青年部員をはじめとした地域農業者と意見交換を常におこなっている。

また、フレールモアやドローンによる肥料散布等の新技術導入前にはメーカー等による試験を自圃場でおこない、その際には町内生産者へも呼びかけをおこない、地域ぐるみでの新技術習得を目指している。

### 5. 今後の作付計画、経営・栽培技術上の方向性

令和7年産からは現在の経営面積7.9haから17.9ha（施設野菜含む）に規模拡大する。今後、管内の生産者が減少していくことを見据え、管内の大型法人や大規模農家と連携しながら耕作放棄地ゼロにむけ、更なる規模面積拡大も視野に入れている。

また、現在の技術を今後も継続しながら、新技術についても積極的に導入しながら気候に左右されない営農をおこなっていく。

## VI その他の特記事項

### 1. 出品者の地域農業における活動状況、経歴、表彰歴

H28年に父親のイチゴ栽培を継承し株式会社徳永ファームを設立。

その後、普通作においては父親の作業を手伝いながら技術習得に努める。

R6年の米・大豆より父親から自作地を継承し本格的に普通作栽培を始める。

R7年より全ての耕作地を父親から継承する予定している。

J A 青年部に所属しており、支部長歴任（令和3年～令和4年）

## Ⅱ． 農林水産省 農産局長賞

### 2. 農事組合法人いまでら (大豆 集団の部)

#### I 総括表

氏名 (年齢)	のうじくみあいほうじんいまでら だいひょうりじ なかむらひろあき 農事組合法人いまでら 代表理事 中村浩章 (66 歳)			住所	〒833-0015 福岡県筑後市津島	
所属農協 電話	福岡八女農業協同組合 0943-23-3314			農協所在地	〒834-0063 福岡県八女市本村422	
出品品種	品種名	作付面積	10a当たり収量	労働時間	5.8 hr/10a	
	◎ちくしB5号	17.0 ha	183 kg	費用合計	44,866 円/10a	
				上位等級比率	82.6%	

※品種名の◎は奨励品種

経営タイプ	法人			
集団のタイプ	協業			
構成農家戸数	17 戸			
オペレーター数	10 人			
専業・兼業別農家数	専業	1 種兼業	2 種兼業	計
	11 人	5 人	1 人	17 人
農業従事者数、 雇用人数	農業従事者	雇用日数 (延べ人日)		
	11 人	0 人日		

#### Ⅱ. 経営の状況

##### 1. 経営農地面積の状況

(単位: ha)

	田	普通畑	樹園地	牧草地	その他 ( )	合計
農地面積	24.8	0.0	0.0	0.0	0.0	24.8
うち自作地						0.0
うち借地	24.8					24.8
全作業受託地						0.0
部分作業受託地						0.0

##### 2. 農作物の作付けおよび規模拡大の状況

###### (1) 大豆・水稻・麦類

(単位: ha)

区 分	大豆			水稻			麦類		
	4年	5年	6年	4年	5年	6年	4年	5年	6年
自作地									
借地	18.6	18.8	17.0						
合計	18.6	18.8	17.0	2.8	3.0	5.8	24.4	24.8	24.8
水田	18.6	18.8	17.0						
転作カウント	18.6	18.8	17.0						
全作業受託									
部分作業受託									
耕起・整地									
施肥・播種									
中耕・培土									
防 除									
収 穫									
その他									

### 3. 農業収入の状況

#### (1) 農業経営の概要

(単位：円)

	大豆	水稻	麦類	その他作物	作業委託料金	加工品販売	合計
農業粗収益①	20,724,141	4,238,998	29,041,798				54,004,937
うち補助金							
畑作物の直接支払交付金	834,618						834,618
水田活用の直接支払交付金	8,265,031						8,265,031
その他( )	0						0
その他( )	0						0
農業経営費②	8,830,436	3,050,267	28,761,543				40,642,246
農業所得(①-②)	11,893,705	1,188,731	280,255				13,362,691

#### (2) 大豆経営の概要

(単位：円)

		大豆		
			10アール当たり	10アール当たり県平均
農業粗収益①		20,724,141	121,620	76,819
うち補助金				
畑作物の直接支払交付金		834,618	4,898	20,000
水田活用の直接支払交付金		8,265,031	48,500	42,500
その他( )				
その他( )				
農業経営費	種苗費	321,508	1,887	2,396
	肥料費	699,628	4,106	2,165
	農業薬剤費	1,235,913	7,253	4,107
	光熱動力費	328,156	1,926	1,757
	諸材料費	2,788	16	1
	土地改良・水利費	3,290,977	19,313	8,295
	賃借料・料金	656,195	3,850	651
	租税公課	141,614	831	(土地改良水利費) 212
	建物費	159,262	935	(建物費) 981
	自動車費	373,016	2,189	(自動車費) 795
	農機具費	284,405	1,669	(農機具費) 7,930
	生産管理費	151,909	891	(生産管理費) 113
	労働費	0	0	9,240
	うち構成員③	0	0	(うち家族③) 7,878
	うち雇用	0	0	1,362
支払利子	13,393	79	26	
支払地代	1,171,672	6,876	4,874	
小計②	8,830,436	51,821	43,543	
農業所得(①-②)	11,893,705	69,799	33,276	
〃(家族労賃除く①-②+③)	11,893,705	69,799	41,154	

※農業経営費の県平均値は、農業経営統計調査「農産物生産費統計(個別経営体)」(令和4年産、九州)を参照。

#### ・経営費に係る特記事項

畑作物の直接支払交付金の金額が県平均と比較して少ないのは、採種事業に取り組んでいるため。農業所得は構成員のは場管理料を含む。

#### (3) その他の参考情報

##### ア 60kg当たり

(単位：円)

農業粗収益	39,817 円
農業経営費	16,966 円
費用合計	14,689 円
農業所得	22,851 円

##### イ 大豆共済への加入状況

(令和6年産)

加入面積	17.04 ha
平均基準10a収量	176 kg

##### ウ 収入保険への加入状況

(令和6年産)

基準収入	円
------	---

### Ⅲ 大豆生産技術などの概要

#### 1. 大豆収穫量

区 分	4年産		5年産		6年産	
1 等	4,809 kg	14.0%	7,419 kg	22.4%	1,743 kg	5.6%
2 等	8,960 kg	26.1%	1,064 kg	3.2%	580 kg	1.9%
3 等	3,606 kg	10.5%	6,194 kg	18.7%	2,789 kg	8.9%
特定加工用	253 kg	0.7%	205 kg	0.6%	161 kg	0.5%
種子合格	14,792 kg	43.1%	15,717 kg	47.5%	23,460 kg	75.1%
その他	1,898 kg	5.5%	2,458 kg	7.4%	2,496 kg	8.0%
計	34,318 kg		33,057 kg		31,229 kg	
単収(kg/10a) (県平均単収比%)	185 kg (154%)		176 kg (95%)		183 kg (165%)	
県平均単収(kg/10a)	120 kg		185 kg		111 kg	

3年平均  
181 kg

#### 2. 堆きゅう肥などの施用状況

(単位：t/10a)

種 類	堆きゅう肥	緑肥すき込み	稲わら・麦かんすき込み
年間施用量			1
入手方法			水稻麦の耕作後の還元

#### 3. 排水対策実施状況

(単位：ha)

実施方法	本暗渠	排水溝	圃場内明渠	弾丸暗渠	心土破碎	高畝
実施面積	17.0	17.0	8.5	17.0	0.0	0.0



4. 大豆の耕種概要 (10a当たり)

項目 作業項目	所用労働時間		うち機械利用時間		作業実施 体制	備考 (使用薬剤 ・使用量など)
	人数×時間	作業機名		時間		
堆肥運搬						
堆肥/基肥散布						
酸度矯正	1.0人×0.2	トラクタ、ブロードキャスター	0.2	共同		ミネラルG・160kg
排水対策	1.0人×0.5	溝堀機、サブソイラ	0.5	共同		弾丸暗渠、明渠施工
種子予措	1.0人×0.1	ミキサー	0.1	共同		キヒゲンR-2フロアブル
耕起	1.0人×0.5	トラクタ、ロータリー	0.5	共同		
整地						
側条施肥	1.0人×0.3	ブロードキャスター	0.3	共同		ちくごのめぐみ444 20kg
播種	1.0人×0.8	トラクタ、播種機	0.8	共同		4kg
除草剤散布	1.0人×0.6	乗用管理機	0.6	共同		2回 7月下旬、8月下旬
中耕	1.0人×0.6			個人		手取り、中耕培土作業の前後と収穫前の3回
中耕	1.0人×0.5	乗用管理機	0.5	共同		1~2回
培土						
培土						
病害虫 防除	殺虫剤散布	1.0人×0.4	乗用管理機	0.4	共同	ノーモルト乳剤、フェスティバルC水和剤
	殺虫・殺菌剤散布	1.0人×0.4	乗用管理機	0.4	共同	プレオフロアブル、トップシシM水和剤他
	殺虫剤散布					
追肥						
畝間かん水						
その他( )						
収穫・脱穀	1.0人×0.7	汎用コンバイン	0.7	共同		
運搬	1.0人×0.2	トラック	0.2	共同		
脱穀						
乾燥		共同乾燥調製施設		JA委託		
調製		共同乾燥調製施設		JA委託		
出荷		共同乾燥調製施設		JA委託		
計	5.8		5.2			

## 5. 作付体系

### (1) ブロックローテーションまたは畑輪作の有無

ブロックローテーション	有
畑輪作	無

### (2) 大豆圃場における代表的な作付け体系

	面積体系別(ha)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和3年	大豆 (18ha)							○大豆					×
	麦類 (24ha)					×	麦類					○	
	水稲 (2ha)						○水稲			×			
令和4年	大豆 (18ha)							○大豆					×
	麦類 (24ha)					×	麦類					○	
	水稲 (2ha)						○水稲			×			
令和5年	大豆 (18ha)							○大豆					×
	麦類 (24ha)					×	麦類					○	
	水稲 (3ha)						○水稲			×			
令和6年	大豆 (17ha)							○大豆					×
	麦類 (24ha)					×	麦類					○	
	水稲 (5ha)						○水稲			×			

## IV 販売などの概要

### 1. 販売実績

(単位：kg)

		4年産	5年産	6年産
生産量		34,318	33,057	31,229
自家消費				
交付金対象出荷量		17,628	14,882	5,273
契約栽培		11,670	10,804	4,584
相対取引		1,587	774	10
入札販売		4,372	3,304	678
交付金対象外出荷量		16,690	18,175	25,956
内訳	自家消費			
	自家加工			
	地場加工業者			
	生活改善グループ			
	その他加工メーカー			
	流通業者			
	その他(問屋)	1,898	2,458	2,496
その他(種子協会)	14,792	15,717	23,460	

### 2. 自家加工実績（令和6年1月～12月）

加工品名	製品別製造・販売量		
		販売量計 (内訳)	計

## V 経営・技術上の取り組み

### 1. 大豆作の取り組みや規模拡大の経緯、農業経営における大豆作の定着度など

#### ○大豆作を中心とした栽培体系

収益性の高い大豆作を法人経営の中心とすることで、安定した経営を実現している。

#### ○採種事業への取組

大豆収益の安定と県産大豆の安定生産に向けた種子の安定供給に貢献するため、10年以上前から採種事業に積極的に取り組んでいる。また、栽培面積の大半を大豆の採種に充て、出荷される種子の品質向上に責任を持って、丁寧な肥培管理に努めている。

#### ○集団の沿革

平成8年の地域の基盤整備を契機に、集落内に機械利用組合を設立

平成24年に上記組合を発展的解消し、農事組合法人いまでらを設立

### 2. 技術改善の取り組み

#### (1)多収化と高品質生産の取り組み

##### ○団地化の取組

主要な農道を隔てて水稻と大豆の団地化を図り、可能な限りブロックローテーションを行うことで、収量及び品質の向上を図っている。

##### ○排水対策（弾丸暗きよの施工）

全ほ場で弾丸暗きよによる排水対策を行い、特に排水の悪いほ場では弾丸暗きよに加えて額縁明きよも施工するなど、ほ場に応じた適切な排水対策を実施している。

##### ○雑草対策

毎年、中耕培土作業の前後および収穫前の年3回、必ず手取り除草を実施し、種子の高品質化に取り組んでいる。この徹底した除草により、土壌中の残存種子が減少し、生育量が確保され、高収量・高品質を実現している。

○有望品種への切替

令和5年産から播種適期の広い県育成品種「ちくしB5号（ふくよかまる）」への切替を行い、安定生産を実現している。

**(2)省力化と生産コスト減、新技術**

○機械・施設利用の効率化

防除や収穫の作業をオペレータ方式で法人が行い、併せて、汎用コンバイン等の大型機械を複数品目で活用することにより、機械保有台数を最低限とし、省力化とコスト低減を図っている。

○防除対策（発生予察の利用）

JA等の情報に加えて、集落内にフェロモントラップを設置することで、集落での発生状況に合わせた一斉防除を実施し、病虫害の発生抑制に努めている。また、近年発生が増加している葉焼病に対しては、予防的防除を実施することで被害の軽減に努めている。

○発芽率の向上

播種機6台での一斉播種により、約17haを約2日間で播種することが可能となっている。そのため、播種適期を逃さず短期間で作業を終えることができ、安定した発芽と生育量の確保につながっている。また、生育の均一化は、その後の適期管理を容易にしている。

**(3)みどりの食料システム戦略に対応した取り組み**

○新技術の導入

燃料使用量の削減や作業の省力化、栽培の安定を図るため、試験的に「部分浅耕播種技術」に取り組んでいる。

○連作障害対策

5年に一度を目安に、麦作後、大豆の播種前に数週間の水張を実施している。

○土づくりによる健全生産のための資材利用

苦土石灰またはミネラルG(160kg/10a)を散布して持続的な土づくりを図っている。

○農薬使用量の低減

地域全体で適期に一斉防除を実施することで、防除効果の向上と補正防除回数の削減を実現し、農薬使用量の低減を図っている。

**3. 販売・消費拡大の取り組み**

○実需者のニーズに対応した栽培管理

種子以外的大豆は、JA全農ふくれんを通じた契約販売等を行っており、実需者との意見交換を通じて需要に応じた大豆生産を行っている。

**4. 地域農業への貢献、その他の特徴的な取り組み**

○近隣法人への協力

近隣法人の労働力不足に対応するため、収穫作業等の作業受託を行っている。また、農業機械の価格高騰および労働力不足に対応するため、近隣法人との農業機械の共同利用について検討している。

○農地中間管理事業の活用

農地中間管理事業を活用し、集落内の農地はすべて法人に集積している。

○耕作放棄地対策

地域の農地を守るため、近隣の小規模農家が離農した場合は中間管理事業を活用して法人に集積し、耕作放棄地が発生しないよう努めている。

○環境保全の取り組み

地域の環境美化には、当法人の構成員が中心となり、草刈り（年5回）、水路清掃（年2回）を行っている。その他、地元にある県営公園のソバ栽培の協力にも取り組んでいる。

○将来的な法人担い手の確保

普段から地域の園芸農家や定年退職者等に声かけを行い、将来のオペレーターの確保に努めている。

○地域全体での病虫害発生防止

集落内で調査したハスモンヨトウの発生状況データ等を関係機関に提供し、地域の情報発信等に活用されている。

## 5. 今後の作付計画、経営・栽培技術上の方向性

○種子生産の複合化

大豆に加えて、麦類でも採種事業に積極的に取り組むことで、周年の取り組みを行い、合理的な作業の体系化を図っており、今後もこの形態で経営の安定化を図っていく。また、それらに付帯した作業機械の充実にも常に目を配り、機械の更新や効率化を考えている。

○安定した収益確保

水田の夏季作物のメインを大豆作に位置付け、各種交付金等の施策にも合致するよう取り組みながら、今後も計画的な収益確保を図る。

## VI その他の特記事項

### 1. 出品者の地域農業における活動状況、経歴、表彰歴

○地域貢献

法人設立以来、農業への理解と食の重要性を地域住民に理解してもらうために、毎年10月に集落全戸（74戸）に対して、新米「夢つくし」2kg/戸の配付を続けている。

また、集落内にあるソフトバンクホークスの選手寮への、毎年200kg贈呈も継続しており、地域や農業への理解促進を行っている。

○表彰歴 なし

### 2. その他

担い手の確保を目的として、社会保険制度に加入するなど、福利厚生の実施に努めている。

### Ⅲ． 全国農業協同組合中央会会長賞

清水 陽介 (大豆 家族経営の部)

#### Ⅰ 総括表

氏名 (年齢)	しみずようすけ 清水 陽介 ( 45 歳)			住所	〒811-3503 福岡県宗像市牟田尻	
所属農協 電話	宗像農業協同組合 0940-36-2119			農協所在地	〒811-3436 福岡県宗像市東郷4丁目2番7号	
出品品種	品種名	作付面積	10a当たり収量	労働時間	6.9 hr/10a	
	◎ちくしB5号	3.3 ha	164 kg	費用合計	50,477 円/10a	
				上位等級比率	77.0%	

※品種名の◎は奨励品種

経営タイプ	家族人数	うち農業従事者	雇用日数 (延べ人日)
個人	4人	4人	822人

#### Ⅱ 経営の状況

##### 1. 経営農地面積の状況

(単位: ha)

	田	普通畑	樹園地	牧草地	その他 ( )	合計
農地面積	23.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.0
うち自作地	5.0					5.0
うち借地	18.0					18.0
全作業受託地	0.0					0.0
部分作業受託地	0.0					0.0

##### 2. 農作物の作付けおよび規模拡大の状況

###### (1) 大豆・水稻・麦類

(単位: ha)

区 分	大豆			水稻			麦類		
	4年	5年	6年	4年	5年	6年	4年	5年	6年
自作地	1.8	0.6	0.4						
借地	8.2	3.4	2.9						
合計	10.0	4.0	3.3	9.5	14.1	14.7	17.9	18.2	18.2
	水田	10.0	4.0						
	転作カウント	10.0	4.0						
全作業受託	0.0	0.0	0.0						
部分作業受託	0.0	0.0	0.0						
耕起・整地									
施肥・播種									
中耕・培土									
防除									
収穫									
その他									

### 3. 農業収入の状況

#### (1) 農業経営の概要

(単位：円)

	大豆	水稻	麦類	その他作物	作業委託金	加工品販売	合計
農業粗収益①	3,171,794	15,205,000	16,248,000	11,966,000			46,590,794
うち補助金							
畑作物の直接支払交付金	212,150						212,150
水田活用の直接支払交付金	1,172,500						1,172,500
その他( )	0						0
その他( )	0						0
農業経営費②	1,813,651	16,588,000	14,665,000	8,638,000			41,704,651
農業所得(①-②)	1,358,144	-1,383,000	1,583,000	3,328,000			4,886,144

#### (2) 大豆経営の概要

(単位：円)

		大豆		
			10アール当たり	10アール当たり県平均
農業粗収益①		3,171,794	94,680	76,690
うち補助金				
畑作物の直接支払交付金		212,150	6,333	20,000
水田活用の直接支払交付金		1,172,500	35,000	42,500
その他( )				
その他( )				
農業経営費	種苗費	105,525	3,150	2,396
	肥料費	130,550	3,897	2,165
	農業薬剤費	263,009	7,851	4,107
	光熱動力費	28,542	852	1,757
	諸材料費			1
	土地改良・水利費			212
	賃借料・料金	494,762	14,769	8,295
	租税公課	21,440	640	651
	建物費	56,749	1,694	981
	自動車費	9,280	277	795
	農機具費	207,533	6,195	7,930
	生産管理費	3,518	105	113
	労働費	370,075	11,047	9,240
	うち家族③	185,054	5,524	7,878
	うち雇用	185,021	5,523	1,362
	支払利子			26
支払地代	122,670	4,230	4,874	
小計②	1,813,651	54,707	43,543	
農業所得(①-②)	1,358,144	39,973	33,147	
〃(家族労賃除く①-②+③)	1,543,198	45,497	41,025	

※農業経営費の県平均値は、農業経営統計調査「農産物生産費統計(個別経営体)」(令和4年産、九州)を参照。

#### (3) その他の参考情報

##### ア 60kg当たり

(単位：円)

農業粗収益	34,539	円
農業経営費	19,957	円
費用合計	18,414	円
農業所得	14,582	円

##### イ 大豆共済への加入状況

(令和6年産)

加入面積	ha
平均基準10a収量	kg

##### ウ 収入保険への加入状況

(令和6年産)

基準収入	42,686,332	円
------	------------	---

### Ⅲ 大豆生産技術などの概要

#### 1. 大豆収穫量

区 分	4年産		5年産		6年産	
	1 等	4,245 kg	36.0%	2,412 kg	26.3%	0 kg
2 等	2,692 kg	22.8%	1,934 kg	21.1%	792 kg	14.4%
3 等	294 kg	2.5%	0 kg	-	564 kg	10.2%
特定加工用	980 kg	8.3%	387 kg	4.2%	142 kg	2.6%
種子合格	2,363 kg	20.0%	4,186 kg	45.7%	3,447 kg	62.6%
その他	1,229 kg	10.4%	240 kg	2.6%	560 kg	10.2%
計	11,803 kg		9,159 kg		5,505 kg	
単収(kg/10a) (県平均単収比%)	106 kg (88%)		223 kg (121%)		164 kg (150%)	
県平均単収(kg/10a)	120 kg		185 kg		110 kg	

3年平均  
164 kg

#### 2. 堆きゅう肥などの施用状況

(単位：t/10a)

種 類	堆きゅう肥	緑肥すき込み	稲わら・麦かんすき込み
年間施用量	0	0	0.4
入手方法			全量すき込み

#### 3. 排水対策実施状況

(単位：ha)

実施方法	本暗渠	排水溝	圃場内明渠	弾丸暗渠	心土破碎	高畝
実施面積	3.3	3.3	3.3	0.0	3.3	0.0

#### 4. 大豆の耕種概要（10a当たり）

項目 作業項目	所用労働時間		うち機械利用時間		作業実施 体制	備考 (使用薬剤 ・使用量など)
	人数×時間	作業機名		時間		
堆肥運搬						
堆肥/基肥散布	2.0人×0.1	ブロードキャスター	0.1	個人		肥料名:PKC30号 散布量:30kg/10a
酸度矯正						
排水対策						
種子予措	1.0人×0.6		0.6	個人		薬剤名:キヒゲンR-2フロアブル 使用量:種子1kgに対して20ml
耕起						
整地						
側条施肥						
播種	1.0人×1.0	トラクター+部分浅耕+工程播種機	1.0	個人		
除草剤散布	2.0人×0.6	乗用管理機+ブームスプレーヤー	0.6	個人		7月8日 薬剤名:ラウンドアップマックスロード 使用量:500ml/10a 7月28日 薬剤名:スタークルのびる原 使用量:200ml/10a 薬剤名:7024400 使用量:50ml/10a 8月2日 薬剤名:大豆バクア 使用量:100ml/10a 薬剤名:スリコフロアブル 使用量:30ml/10a
中耕	1.0人×1.0	中耕培土機	1.0	個人		同時に培土作業
中耕						
培土						
培土						
病虫害防除	殺虫剤散布	無人ヘリ(委託)		玄海地区無人ヘリ防除組合		プレオフロアブル(料金2,229円×5分)
	殺虫・殺菌剤散布	無人ヘリ(委託)		玄海地区無人ヘリ防除組合		プレオフロアブルスタークル液剤10+トリアジンM水和剤(料金465円×5分)
	殺虫剤散布	無人ヘリ(委託)		玄海地区無人ヘリ防除組合		スタークル液剤10+プロフレアSC(料金3,900円×5分)
追肥						
畝間かん水						
その他(除草作業)	2.0人×0.6	手取り		個人		8~10月アサガオ対策
収穫	1.0人×0.9	大豆コンバイン	0.9	個人		
島立て・にお積み						
脱穀						
乾燥						CE利用
調製						CE利用
出荷	1.0人×0.9		0.9			
計	6.9		5.1			

## 5. 作付体系

### (1) ブロックローテーションまたは畑輪作の有無

ブロックローテーション	有
畑輪作	有

### (2) 大豆圃場における代表的な作付け体系

	面積体系別(ha)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和3年	大豆 (3.3ha)							○大豆				×	
	麦 (17.9ha)						×						○麦
	キャベツ(3.1ha)			×	×	×	×	×					
		キャベツ											
令和4年	水稻 (3.3ha)							○水稻			×		
	麦 (17.9ha)						×						○麦
	キャベツ(3.9ha)										定植○		
		キャベツ											
令和5年	大豆 (3.3ha)							○大豆				×	
	麦 (18.2ha)						×						○麦
	キャベツ(3.9ha)			×	×	×	×	×					
		キャベツ											
令和6年	大豆 (3.3ha)							○大豆				×	
	麦 (18.2ha)						×						○麦
	キャベツ(4.3ha)										定植○		
		キャベツ											

## IV 販売などの概要

### 1. 販売実績

(単位：kg)

		4年産	5年産	6年産
生産量		11,803	9,159	5,505
自家消費		0	0	0
交付金対象出荷量		8,211	4,733	1,498
契約栽培		0	0	0
相対取引		0	0	0
入札販売		0	0	0
交付金対象外出荷量		3,592	4,426	4,007
内訳	自家消費			
	自家加工			
	地場加工業者			
	生活改善グループ			
	その他加工メーカー			
	流通業者	1,229	240	560
その他(種子協会)		2,363	4,186	3,447

### 2. 自家加工実績(令和6年1月~12月)

加工品名	製品別製造・販売量		
		販売量計 (内訳)	計

## V 経営・技術上の取り組み

### 1. 大豆作の取り組みや規模拡大の経緯、農業経営における大豆作の定着度など

1. 地域の主要な担い手であり、家族経営で水稻・麦・大豆の土地利用型農業と加工キャベツとの複合経営により収益向上を図っている。
2. 経営面積は2,300aで、高齢化等による生産者の減少に伴い、農地を引き受け規模拡大を積極的に行っている。また、約75%の農地で農地中間管理機構を活用し、効率的な農地集約に務めている。
3. ブロックローテーションにより連作障害を回避し、各品目の安定生産を目指している。
4. 大豆作当初から種子生産にも取り組んでおり、県内の優良種子確保に長年貢献している。
5. 令和4年度から「フクユタカ」から県育成有望品種「ちくしB5号」に全面転換している。地域への本格導入に先立ち、県・JAと協力しながら、4年間かけて、「ちくしB5号」の現地実証試験を行った。

### 2. 技術改善の取り組み

#### (1)多収化と高品質生産の取り組み

1. 麦作前に周囲溝と心土破砕による排水対策を徹底している。
2. 播種時には、土塊の大きさや乾き具合に細心の注意を払い、納得のいくタイミングを見定め、出芽率を高めている。
3. 地域の水門管理を行っており、適正な水管理に努めている。高温乾燥条件下では、用水路の水位を高めて大豆ほ場の本暗渠から逆流させて地下灌漑を行っている。

4. 約10年前から、排水対策や適期播種率の向上のため部分浅耕一工程播種技術を導入している。
5. 雑草対策は播種前からの体系防除を実施し、アサガオ類等の難防除雑草が残ったほ場は手取りを実施し、確実に除草するよう心がけている。
6. 病虫害防除は、普及指導センターやJAから出される管理情報や自身による見回り、生産者部会で設置したフェロモントラップ調査をもとに、防除時期を判断している。
7. 収穫時は、土かみ等の発生がないように細心の注意を払っている。
8. 収量が低かったほ場については土壌分析を実施し、次期作に向けて土壌改良を行っている。

## (2)省力化と生産コスト減、新技術

1. 畦畔除去によるほ場の大区画化を進め、作業の効率化を図っている。  
また、それに合わせたレーザーレベラー、自動操舵装置のトラクタ、ドローンおよび栽培管理支援システム（ザルビオ）等の導入を検討している。
2. 先進的に部分浅耕一工程播種技術を導入し、播種作業の省力化に努めている。
3. 機械の点検・整備を毎年実施し、機械の保守に努めている。
4. 大豆ほ場を自宅周辺に集積して団地化し、作業効率を高めている。
5. 病虫害防除は、JAが管轄するヘリ防除組合に委託し、労力の削減に努めている。

## (3)みどりの食料システム戦略に対応した取り組み

1. 土壌分析に基づく適切な肥培管理を心がけ、無駄な資材投入を避けている。
2. 部分浅耕一工程播種技術により、作業の省力化とCO<sub>2</sub>排出量削減に寄与している。
3. 普及指導センターやJAから出される管理情報および、見回りや地区で設置したフェロモントラップ（3か所あり、ハスモンヨトウの誘引数を週2回調査）調査を参考に防除時期を判断し、なるべく農薬を使わないよう、心がけている。
4. R6年度に低コストで肥効が緩やかな有機質を含む資材の現地実証試験に取り組んでいる。

## 3. 販売・消費拡大の取り組み

1. 市の認定農業者協議会が主催する消費者との交流で、自身のほ場を提供し枝豆刈り行事等に協力している。また、地元小学校の米づくりや枝豆づくりの体験授業に協力している。

## 4. 地域農業への貢献、その他の特徴的な取り組み

1. イノシシ等の獣害対策に取り組むなど、農地保全管理に積極的に取り組んでいる。水稻栽培では乾田直播栽培に取り組み、移植作業との分散を図っている。
2. 市や地域の大学との連携からなる「宗像大豆プロジェクト」に参加し、耕作放棄地を活用した大豆生産ボランティアに参加するなど、地域の活性化に貢献している。
3. 地域で取り組む溜池の法面などの除草作業において、作業参加者の負担を軽減するため、R6年に自身でラジコン草刈り機を導入し、可能な限り事前に除草作業を行っている。

## 5. 今後の作付計画、経営・栽培技術上の方向性

1. 将来のさらなる農地集約に向け、省力・低コスト化に向けたスマート農機の導入を目指している。具体的に、自動操舵装置付きのトラクタ、ドローンおよび栽培管理支援システム（ザルビオ）等の導入に向けて先進技術の情報収集に努めている。
2. 市やJA等が実施する研修会には、積極的に出席し、補助事業等の活用を行っている。
3. JAバンクが主体となり実施している担い手コンサルティング活動に参加し、自己経営の課題抽出・解決に取り組んでいる。

## VI その他の特記事項

### 1. 出品者の地域農業における活動状況、経歴、表彰歴

1. 親子2代で地域農業を支える主要な担い手であり、地域からの信頼が厚い。
2. R4年度全国麦作共励会で全国農業協同組合中央会会長賞を受賞している。
3. キャベツ加工部会部会長のほか、牟田尻農地・水・環境保全活動組織、および玄海地区麦大豆部会の役員を務めている。



# Ⅳ． 全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞 戸ヶ里生産組合（大豆 集団の部）

## Ⅰ 総括表

氏名 (年齢)	とがりせいさんくみあい 戸ヶ里生産組合 代表 定松右樹 (40 歳)			住所	〒849-1203 佐賀県杵島郡白石町戸ヶ里	
所属農協 電話	佐賀県農業協同組合白石地区営農経済センター農産課 0952-84-7010			農協所在地	〒840-0803 佐賀県杵島郡白石町大字遠江183番地1	
出品品種	品種名	作付面積	10a当たり収量	労働時間	6.2 hr/10a	
	◎フクユタカ	21.3 ha	156 kg	費用合計	40,962 円/10a	
				上位等級比率	81.7%	

※品種名の◎は奨励品種

経営タイプ	任意団体			
集団のタイプ	集団栽培			
構成農家戸数	8 戸			
オペレーター数	2 人			
専業・兼業別農家数	専業	1種兼業	2種兼業	計
	8 人	人	人	8 人
農業従事者数、 雇用人数	農業従事者	雇用日数(延べ人日)		
	人	人日		

## Ⅱ 経営の状況

### 1. 経営農地面積の状況

(単位：ha)

	田	普通畑	樹園地	牧草地	その他( )	合計
農地面積	75.6	7.7	0.0	0.0	0.0	83.3
うち自作地	39.4	7.7				47.1
うち借地	36.2					36.2
全作業受託地						0.0
部分作業受託地						0.0

### 2. 農作物の作付けおよび規模拡大の状況

#### (1) 大豆・水稲・麦類

(単位：ha)

区 分	大豆			水稲			麦類		
	4年	5年	6年	4年	5年	6年	4年	5年	6年
自作地	16.91	18.31	10.76	51.0	49.1	52.0	73.0	69.6	68.1
借地	7.69	12.91	10.66						
合計	24.60	31.22	21.42						
	水田	20.71	27.69	21.04					
	転作カウント	20.71	27.69	21.04					
全作業受託									
部分作業受託									
	耕起・整地								
	施肥・播種								
	中耕・培土								
	防除	24.60	31.22	21.42					
	収穫	24.60	31.22	21.42					
	その他								

### 3. 農業収入の状況

#### (1) 農業経営の概要

(単位：円)

	大豆	水稲	麦類	その他作物	作業受託料金	加工品販売	合計
農業粗収益①	19,931,507	88,570,000	54,480,000				143,050,000
うち 畑作物の直接支払交付金	5,472,175	46,831,127	32,775,168				5,472,175
うち 水田活用の直接支払交付金	7,360,500	41,738,873	21,704,832				7,360,500
うち 補助金	2,757,040						2,757,040
うち その他( )	0						0
農業経営費②	8,765,959						79,606,295
農業所得(①-②)	11,165,548						63,443,705

#### (2) 大豆経営の概要

(単位：円)

		大豆			
			10アール当たり	10アール当たり県平均	
農業粗収益①		19,931,507	93,575	98,142	
うち 補助金	畑作物の直接支払交付金	5,472,175	25,571	28,190	
	水田活用の直接支払交付金	7,360,500	34,395	35,000	
	その他(団地化)	2,757,040	12,883	13,000	
	その他( )				
農業経営費	種苗費	526,289	2,459	2,841	
	肥料費	446,190	2,085	2,553	
	農業薬剤費	1,217,232	5,688	3,778	
	光熱動力費	272,208	1,272	1,543	
	諸材料費		0	—	
	土地改良・水利費	733,806	3,429	1,149	
	賃借料・料金	1,108,548	5,180	8,712	
	租税公課	156,006	729	646	
	建物費	162,426	759	1,149	
	自動車費	90,950	425	7,949	
	農機具費	1,006,442	4,703		
	生産管理費	25,252	118	136	
	労働費		1,847,248	8,632	10,113
		うち家族③	1,847,248	8,632	9,074
		うち雇用		0	—
	支払利子	10,272	48	1,678	
支払地代	1,163,090	5,435	6,986		
小計②	8,765,959	40,962	49,233		
農業所得(①-②)	11,165,548	52,613	48,909		
〃(家族労賃除く①-②+③)	13,012,796	61,245	57,983		

R6品代7,840円/60kgで試算  
白石地区平均  
基準単価  
基準単価

#### (3) その他の参考情報

##### ア 60kg当たり

(単位：円)

農業粗収益	35,789 円
農業経営費	15,740 円
費用合計	13,633 円
農業所得	20,049 円

##### イ 大豆共済への加入状況

(令和6年産)

加入面積	1.4 ha
平均基準10a収量	173 kg

##### ウ 収入保険への加入状況

(令和6年産)

基準収入	円
------	---

白石町錦江地区の平均

### Ⅲ 大豆生産技術などの概要

#### 1. 大豆収穫量

区 分	4年産		5年産		6年産	
	1 等	15,579 kg	59.5%	50,439 kg	82.6%	18,341 kg
2 等	7,040 kg	26.9%	4,217 kg	6.9%	8,812 kg	26.5%
3 等	2,586 kg	9.9%	5,686 kg	9.3%	3,600 kg	10.8%
特定加工用	967 kg	3.7%	726 kg	1.2%	2,496 kg	7.5%
種子合格	kg	-	kg	-	kg	-
その他	kg	-	kg	-	kg	-
計	26,172 kg		61,068 kg		33,249 kg	
単収(kg/10a) (県平均単収比%)	106 kg (89%)		197 kg (91%)		156 kg (122%)	
県平均単収(kg/10a)	119 kg		216 kg		128 kg	

3年平均  
153 kg

#### 2. 堆きゅう肥などの施用状況

(単位：t/10a)

種 類	堆きゅう肥	緑肥すき込み	稲わら・麦かんすき込み
年間施用量			全量すき込み
入手方法			全量すき込み

#### 3. 排水対策実施状況

(単位：ha)

実施方法	本暗渠	排水溝	圃場内明渠	弾丸暗渠	心土破碎	高畝
実施面積	21.42			21.42		

#### 4. 大豆の耕種概要（10a当たり）

作業項目	所用労働時間		うち機械利用時間		作業実施体制	備考 (使用薬剤・使用量など)
	人数×時間	作業機名		時間		
堆肥運搬						
堆肥/基肥散布						
酸度矯正	2.0人×0.3	ブロードキャスター	0.6	個人		
排水対策	2.0人×0.3	サブソイラー	0.6	個人		
種子予措	2.0人×0.1	ミキサー、手混	0.2	個人		
耕起	2.0人×0.5	トラクター	1.0	個人		
整地						
側条施肥						
播種	2.0人×0.6	大豆播種機	1.2	個人		
除草剤散布	2.0人×0.3	乗用管理機	0.6	個人		ラクサー乳剤等
中耕						
中耕						
培土	2.0人×0.5	トラクターカルチ	1.0	個人		
培土						
病虫害防除	殺虫剤散布					
	殺虫・殺菌剤散布	2.0人×0.1	ドローン、無人ヘリ	0.2	一部無人ヘリ委託	ノーモルト、ベネビア等
	殺虫剤散布					
追肥						
畝間かん水						
その他（ ）						
収穫	2.0人×0.4	大豆コンバイン	0.8	一部JA委託あり		
島立て・にお積み						
脱穀				農協委託	大豆共乾施設	
乾燥				農協委託	大豆共乾施設	
調製				農協委託	大豆共乾施設	
出荷						
計	6.2		6.2			

## 5. 作付体系

### (1) ブロックローテーションまたは畑輪作の有無

ブロックローテーション	有
畑輪作	無

### (2) 大豆圃場における代表的な作付け体系

	面積体系別(ha)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和3年	大豆 (29ha)							○					×
	麦 (70ha)						×						○
	水稲 (45ha)						○				×		
令和4年	大豆 (24ha)							○					×
	麦 (73ha)						×						○
	水稲 (51ha)						○				×		
令和5年	大豆 (31ha)							○					×
	麦 (69ha)						×						○
	水稲 (49ha)						○				×		
令和6年	大豆 (21ha)							○					×
	麦 (68ha)						×						○
	水稲 (52ha)						○				×		

#### IV 販売などの概要

##### 1. 販売実績

(単位：kg)

		4年産	5年産	6年産
内 訳	生産量	26,172	61,068	33,249
	自家消費			
	交付金対象出荷量	26,172	61,068	33,249
	契約栽培	26,172	61,068	33,249
	相対取引			
	入札販売			
	交付金対象外出荷量	0	0	0
	自家消費			
	自家加工			
	工場加工業者			
生活改善グループ				
その他加工メーカー				
流通業者				
その他(種子協会)				

##### 2. 自家加工実績(令和6年1月~12月)

加工品名	製品別製造・販売量		
	販売量計	計	0 kg
	(内訳)		kg
			kg
			kg
			kg

#### V 経営・技術上の取り組み

##### 1. 大豆作の取り組みや規模拡大の経緯、農業経営における大豆作の定着度など

- ・戸ヶ里生産組合は米麦大豆、園芸作物と幅広く作付けを行われている。農業従事者が減少する中、後継者が地域の農地を小作し作付面積の維持拡大を行ってきている。
- ・大豆作は減反政策当初より、ブロックローテーションに基づき集団転作として大豆作を中心に行っている。
- ・生産組合として生産組合長を中心として、JAの会合の積極的な参加、また生産組合内の会合ではお互いに情報交換を行われている。また地域住民と協力して地域の美化活動も行われています。

##### 2. 技術改善の取り組み

###### (1)多収化と高品質生産の取り組み

###### ○排水対策徹底

麦・玉葱収穫終了後は、早めにサブソイラーによる排水対策、また石灰を投入し酸度矯正を行い、すぐ播種ができる状態にしておく。

###### ○適期播種

天候を確認しながら7月上中旬を中心とした播種を心掛け、逆転ローターによる播種で出芽率向上、苗立ち確保を行うようにしている。

###### ○雑草対策

播種後は土壌処理剤の効果を高めるため鎮圧を実施する。またホオズキ・アサガオ

の発生が多いため茎葉処理剤との体系処理を実施。また培土による残草処理を行う。

○病虫害防除

JA と県の情報確認と圃場巡回で JA 無人ヘリとドローン等で適期防除を行う。

○収穫

圃場確認と水分等を考慮しながら適期収穫で収穫ロスにならないように注意している。

**(2)省力化と生産コスト減、新技術**

○病虫害防除は県や JA からの情報を収集、こまめな圃場巡回により、共同所有のドローンや JA 無人ヘリと連携しながら、防除遅れや追加防除にならないように適期防除に努めることで労働時間の削減、農薬等のコスト低減をはかっている。

○麦わら等全量すき込みで土づくりを行いことで土づくり資材等も削減できている。

○集団転作田については大豆を作付けし次年度水稻のスクミリングガイ被害対策を行っている。

○刈取りは JA 大豆コンバイン委託も行い刈取り期間の短縮をさせている。

○ JA で取組まれている SAKUMO を有効活用していきたい。

**4. 地域農業への貢献、その他の特徴的な取り組み**

各農家の所得確保のため、生産組合内で協力し合い大口農家がカバー出きる所は防除、刈取りなどはサポートしている。また安全安心な農産物生産のため圃場周辺の環境整備(除草作業等)も行っている。

**5. 今後の作付計画、経営・栽培技術上の方向性**

- ・今後も大豆を転作作物の中心として作付けを行う。近年異常気象により、収量低下がみられるため新品種の導入と JA・県と連携して異常気象に負けない大豆づくりを行い所得確保に努めていきたい。

